

秋視協便り 2018年冬号



～～ 共生社会の実現をめざして ～～

発行 一般社団法人秋田県視覚障害者福祉協会
平成30年 1月31日



発行責任者 会長 武田 利美

事務局 〒010-0922 秋田市旭北栄町1-5

電話 018-864-2783

FAX 018-864-2785

E mail : akisikyou@mub.biglobe.ne.jp(事務局)

ホームページアドレス <http://www.akisikyou.jp>

私たちの願い

会長 武田 利美

「画面が見えなくても、大丈夫ですよ。」とのことでしたので、スマートフォン講習会に参加しました。確かに画面に指先で触れると、そこは何なのか音声で読み上げてくれます。それでも悪戦苦闘していると、「それならスマホに話しかけてお願いしてみてください」だそうです！

以前、ハイテクと言われて様々な製品がボタン式操作からタッチパネル操作へと変わり、私たち視覚障害者には操作できず、不便になるばかりで困惑しました。

そして今、私たちの周りにある多くの製品・施設・サービスは誰もが使いやすいものになっているのでしょうか。

障害者等が、積極的に参加・貢献していくことができる共生社会の実現を願っています。

実施事業・話題

◆全国盲青年研修大会

8月26日(土)・27日(日)の両日、鹿児島市東急REIホテルを主会場として「第63回全国盲青年研修大会」が行われた。

26日、代表者会議では、9月から全国の視覚障害を持つ児童・生徒の把握を目的としたアンケートの実施を61団体及び視覚支援学校、点訳教科書製作所へ依頼をすること。アンケート回収は10月末、その後集計がされ、後日、報告されることとなった。

分科会（交通）では、7つの議題が提出され、関東ブロックから提出された、視覚障害者が駅を安全快適に使えるよう、エスカレーターの音サイン、点字ブロックなど様々な設置を総合的に整備するように要望する、和歌山県から提出された、すべての動力車両に音声化した方向指示器の搭載を要望するとの2つが全国委員会にあげられることとなった。

27日、第2研修会では、UDCAST(ユーディキャスト)～映画館に行こう！～スマホでいつでも音声ガイド」の体験をした。これは、スマホ、タブレットユーザーでなければ使えないのですが、「自分一人の副音声解説」を受けてる感覚が味わえ、ゆくゆくは「ユーザー個人専用の音声ガイド」として使えるように改善していく予定だそうで、「音声にかかわるすべてに」対応されることを目指しているとのこと。これを機に、全国の視覚障害者がスマホやタブレットを使う人が増えれば、今まで以上に不便は解決されるのではないかと期待したい。

来年の開催は奈良県で9月16日(日)、17日(月)と決まりました。

◆全国盲女性研修大会

第63回全国盲女性研修大会が関東ブロックを主幹として9月5日(火)から7日(木)まで群馬県のホテルメトロポリタン高崎を主会場といたしまして、日盲連の竹下義樹会長の出席のもと開催されました。本県からは、付き添いを含めて7名が参加いたしました。代表者会議においては、各ブロックからの提出議題も含めて提案された議題は全て承認されました。研修会の第1部は創立72年を迎えた群馬交響楽団弦楽四重奏の演奏を観賞いたしました。第2部は例年通り「家事の工夫とコツ」と題して、レポートの発表と意見交換会が設定されました。衣食住の多岐にわたって、活発な質疑応答が繰り広げられました。キッチンバサミを上手に使いこなしている例や、洗濯は足での踏み洗いが一番と自慢する方もいました。大いに参考になりました。来年は島根県で開催されます。

◆盲導犬理解のための説明会と実体験

平成29年9月24日、仙北市田沢湖公民館、講師に公益財団法人北海道盲導犬協会の指導員を迎え、盲導犬理解のための説明会と実体験が行われました。

体験者に話を聞くと、盲導犬が力強く引っ張ってくれたので安心した。目の見えない人にとって盲導犬が大切な存在だと分かったなどの感想がありました。

参加者24名、体験者 大人5名、小学生6名（合計11名）

◆リーダー研修会を開催

会員並びに各団体の代表者及び支援者など関係者が、共に視覚障害者が当面する課題や諸問題について研修を通じ見識を深める目的で、9月30日、県心身障害者総合福祉センター3階会議室において、今年度のリーダー研修会が開催されました。

講師に秋田県障害福祉課 保坂小春さんをお迎えし、「秋田県手話言語、点字等の普

及等による円滑な意思疎通の促進に関する条例」についての詳細な解説をしていただきました。

その後、ディスカッションとして、見え方の違いによるコミュニケーション支援の在り方について「果たして自分の場合は？」とのテーマで活発な話し合いがなされました。

◆三療講習会

平成29年10月15日、秋田県社会福祉会館で三療（あんまマッサージ鍼灸）講習会が行われました。テーマは「腰痛について・腰痛を起こす病気の種類とその対応法、東洋医学的な考え方、治療等」。講師は秋田県立視覚支援学校教諭 佐藤均先生。腰痛の原因や、腰痛の東洋医学的な考え方、治療穴などについての講話を聞き、その後様々な症例などが話され、また最新の医学的な知識や経穴の新しい取穴法についての説明を聞き、医学が日進月歩の世界であることを確認しあいました。

◆あはき等法19条を守る東北協議会秋田支部設立集会から

現在仙台地方裁判所で進められている、あはき等法19条違憲訴訟については、あはき等法19条を守る東北協議会が視覚障害者の大事な職域としてのあんまマッサージ指圧業を守ろうと、署名活動や募金活動などを行っています。この活動を県内においても関係団体が協力して推進することを目的として、10月15日（日）秋田県社会福祉会館において支部結成集会が開かれました。

集会では、会則の承認・役員を選出そして、お互いに情報を共有しながら協力して活動を推進することなどを確認しました。

◆東北盲人福祉大会より

東北盲人会連合発足60周年記念・第56回東北盲人福祉大会が、11月12日（日）・13日（月）の両日、仙台市秋保温泉岩沼屋で開催され、東北各地から来賓・ボランティアを含めて約160名が参加し、当協会からも武田会長を始め、14名が参加しました。

12日は、午前に会長会議・女性部長会議・青年部長会議が行われ、それぞれに当面する諸問題について討議が行われました。

午後からの代議員総会では、各種大会・会議の報告、あはき法19条を違憲とする裁判への対応状況等の報告、社会福祉法人改革に伴い日本盲人会連合が定款を変更したことを受け、東盲連の会則も改正することとなり、新会則案が提案され承認されました。また、各団体提出の議案が審議され、全て採択されました。

その後の基調講演では、日盲連の竹下義樹会長による「視覚障害者の福祉の現状をめぐる最近の動きと今後の課題」という演題で、あはき等法19条をめぐる裁判の状況説明、職業問題、同行援護事業等について検討すべき課題等が話されました。

続いて、フリートークとして宮城教育大学の長尾博教授から、「見えないから危険？

これって見える人の優しさなのですか？～笹かまぼこ手作り体験拒否事件から考えてみたこと～」というテーマで、体験談を交え軽妙な語り口で、共生社会を作っていく上で当事者の考えをいかに啓発していくかを話されました。

13日の福祉大会では、岩手県視覚障害者福祉協会の小島伸公相談役による東盲連発足60周年記念講演が行われ、東盲連60年の歴史を振り返りつつ、視覚障害者がこのような大会に参加することが大事であり、それが役員を育て組織力も上がっていくということなど今後の課題を話されました。

その後の式典では、仙台市長の郡和子氏をはじめとするたくさんの来賓を迎え、スローガンに「守り抜こう！あはき法19条」「語り合おう！視覚障害者の未来」「目指そう！誰もが暮らしやすい共生社会」「なくそう！福祉の地域間格差」の四つを掲げ、会長・来賓挨拶、大会宣言、大会決議が行われました。最後に次年度大会を主管する当協会の武田利美会長より挨拶があり、青葉城恋歌を斉唱し閉会となりました。

<大会決議>

- － 障害者差別解消法の国民への啓発事業を展開するよう要望する。
 - － あはき等法19条を堅持し、無免許マッサージ師の撲滅等、視覚障害者が経済的に困窮しないような政策を行うよう要望する。
 - － 同行援護サービスの運用に当たっては、利用時間の制限をなくし、個人のニーズに応じた支給量を確保できるよう要望する。
 - － 視覚障害者の代読・代筆サービスを「障害者総合支援法」に国の必須事業として位置づけるよう要望する。
 - － 視覚障害者が鉄道駅を安全で快適に利用できる、エスカレーターの音サイン、点字ブロック、簡易なホーム柵等さまざまな設備を、総合的に整備するよう要望する。
 - － 視覚障害者の就労実態を明らかにし、合理的配慮を踏まえ、職種・職域の拡大に取り組むよう要望する。
 - － 点字ディスプレイの開発に当たっては、多機能なものだけではなく、簡単操作で、操作しやすく持ち運びに便利な商品も開発してくれるよう要望する。
 - － テレビ放送において、災害時の緊急速報は、音声化と共に字幕スーパーは大きくする等の弱視者への配慮を行い、ニュースなど外国語の日本語訳が字幕化されているものについては、その音声化を要望する。
 - － 視覚障害者が自力で購入できるような自動販売機のシステム開発を要望する。
 - － 日常生活用具など福祉サービスの全国統一化を要望する。
 - － 原発がある自治体にあっては、音声線量計を日常生活用具品目に追加するよう要望する。
 - － 日常生活用具給付品目にタブレット端末・スマートフォンの追加を要望する。
 - － 新しいGPSを利用した音声ナビの新規の開発とその普及を要望する。
- 以上 決議する。

◆中途失明者緊急生活訓練事業を実施

相談事業・総合生活訓練事業の2つの事業を横手市において10月28日・29日に地元協会会員のご協力をいただき、同時開催しました。横手市在住の視覚障害者手帳保持者300名ほどに案内を出したところ、ボランティア・関係者・協会会員・案内を見ての参加者など15名の参加でした。

1日目は、IT機器や日常生活用具・弱視者用ルーペなどの紹介と相談を開催しました。参加者はそれぞれの内容に対し興味をお持ちのようでしたが、昨今のIT機器の種類や個人の状況が異なることから、対応にさまざまな状況があることも実感されました。

2日目は、横手市役所の福祉行政担当職員による「社会福祉の現状」についての講話と質疑・応答を実施しました。そこでは、日常生活用具やガイドヘルパー制度などにおいて、地域においても異なるところがあることが感じられました。

その他、バリアフリー点検として、会場周辺の道路、点字ブロックや音声信号機の点検を実施しました。

◆スマホ講習会に参加して

仙北市 高橋 保生

11月19日仙北市立角館榊細工伝承館にて開催された、スマホ講習会に参加しました。

スマホはマッサージのお客様から触らせてもらったことはありましたが、その時は周りだけを触って、画面は触れて変にするといけないと思い触りませんでしたので、今回じっくりと触りながらの講習ができました。

カメラで写した物を認識して何であるか教えてくれるアプリを使って、私のパートナーの盲導犬を試しに写してみましたが、なんとワンちゃんの毛の色と着ている服の色、そして犬の種類（ラブラドル）まで認識して音声で教えてくれたのに大変驚きました。

初めてじっくり触って、操作方法などの講習を受けて、ある程度使い方を覚えればこれは何とか使えると実感しました。

春には、誤差数センチといわれる日本版GPS衛星が実用化されるようなことも聞いています。ますます便利になるスマホ。私も購入を検討中です。

◆地域交流事業

29年度は5地域（大館・北秋田・秋田・仙北・湯沢雄勝）で治療奉仕を実施しました。

◆触読勉強会（点字講習会）

平成29年4月から12月の間月1回のペースで、点字講習会が行われました。12月は、点字で年賀状作成にチャレンジしました。

スポーツ・文化・リクリエーション

◆自然観察会に会員が参加

9月10日(日)に秋田県自然観察指導員連絡協議会主催の自然観察会が開催されました。視覚障害者は付き添いも含め10名の参加でした。当初は小泉湯公園の予定でしたが、熊の出没により場所が大湯村生態系公園へ変更となりました。

途中、大湯富士に立ち寄り全員が無事富士山の登頂を果たしました。生態系公園では、参加者一人に自然観察指導員が3名ずつ付き添ってくださり、丁寧な説明をしてくださいました。樹木の幹や葉っぱや木の実に触ったり香をかいだり、山ぶどうを口に含んだり、サルノコシカケなどのキノコに触らせてくれたりと、触覚・嗅覚・味覚を十分に発揮できました。昼食後はハーモニカに合わせて秋田県民歌や青い山脈などを全員で歌い、とても楽しい自然観察会でした。

◆グラウンドゴルフ教室

9月24日(日)、秋視協青年部主催のグラウンドゴルフ体験教室が、秋田市の健康増進センター「ユフォーレ」で開催されました。出席者は、会員、ボランティアの方々を含めて11名。秋晴れの中、自然の風を感じながらグラウンドゴルフを体験しました。

初心者コースを3組に分かれ、1チーム3～4人で、全コースをそれぞれランダムにスタートです。初心者コースとはいえ、そんなにあまいものではありません。ショートやオーバーは当たり前、草むらやOBの連発。おかげさまで終了までの2時間で何日分歩いたことか。体力を使い、ノドも乾いた頃ちょうどお昼となりました。冷たい飲み物、肉、野菜、焼きそば、空腹になった食欲を止めることはできません。グラウンドゴルフをサポートして、その後、必死でバーベキューを作ってくれたボランティアの皆さん、本当にありがとうございました。食後には、「ユフォーレ」の温泉に入浴してリフレッシュ。疲れた体を癒すには最高でした。おかげさまで、心身ともに満たされた一日でした。

◆わくわく文化祭開催

10月1日(日)、さわやかな秋晴れのもと、秋視協わくわく文化祭が秋田県社会福祉会館10階大会議室、9階第4会議室を会場に開催されました。

恒例の文芸作品には会員10名から多数の作品が寄せられ、秋田市歌人協会顧問の三浦先生より優秀作品の発表と講評をしていただきました。今年は講評の時間が30分オーバーする程、優秀作品が多くて、これも会員がレベルアップしてきたことの証だと思えます。日頃から作品を作り続けることが大事だそうです。

続いて、錦心流琵琶奏者 鷹觜 優水(たかのはし ゆうすい)さんによる琵琶演奏会が開催されました。「琵琶の音色と語りを楽しむ」とのテーマで、平家物語と八島の誉れが解説と共に披露され、また秋田市仁井田に伝わる民話「ふき娘」の創作琵琶

も披露されました。鷹觜さんの朗々とした語りにならせた琵琶の音色は、時に優しく、時に激しく、また歌うように、そして語りかけるようであり、日本人の心の奥深くに響く素晴らしい演奏でした。

会員によるアトラクションとして、秋田市の大山信子さんが詩吟を披露して下さり、堂々とした発表に会場から大きな拍手が湧き上がりました。

青年部によるフードコーナーも大盛況で、手作り豚汁に心も体も温まりました。混乱を避けるため、今年は事前に食券販売をして引き換え制にしました。

また当日は秋田県点字図書館による視覚障害者情報機器と日常生活用具展示会も同時開催されました。通常の展示品の他に、100円ショップで買える便利グッズも展示され、多くの会員が手に取っていました。手軽で便利な物への関心の深さを実感しました。

今年は琵琶演奏会の外部への事前PRをしたため、一般の方も多数来場して下さいました。

『平成29年度 文芸作品』

秋田市歌人協会顧問 三浦貴智介先生選による優秀作品をご紹介します。

<特選>

【短歌】 大館市 木村俊雄

仏壇にもみじのような手を合わせ 何祈るやら母親真似て

<秀逸>

【短歌】 大館市 木村俊雄

グミの木をつがいで占めたかヒヨドリの

雄叫び高し静寂を裂く

【短歌】 秋田市 煙山百合子

待ちわびて足取り軽き散歩道 行き交う人の声にも春が

【短歌】 秋田市 高橋順子

けなげな片栗の花お手本に

出しゃばりすぎず控えめに生きる

【俳句】 秋田市 宇佐美咲子

夕焼けを眺め至福の露天風呂

【俳句】 北秋田市 小川信夫

荒磯に波の花舞い春となり

【俳句】 湯沢市 柿崎妙子

風毎に揺れる葉っぱや雨蛙

【俳句】 秋田市 高橋順子

早朝の旅立つ肩にわすれ雪

【俳句】 秋田市 萩野ケイ

故郷(ふるさと)や田植えの乙女ほっかむり

山路来て湧き水汲むや花菖蒲

【川柳】 秋田市 高橋順子
しあわせは身の丈でいい欲張らず
人生は一期一会の積み重ね

【川柳】 秋田市 門間博明
囃子冴え巧みな腰でしなる竿

◆小坂町レールパークへの旅を満喫

昔のトロッコに乗ってみたいと思い企画した旅がこんなに感動するとは思わなかった。

最初に鉱山事務所の見学をした。ガイドさんの説明を聞き、明治時代に小坂鉱山の人口が3万人で、秋田市が3万5千人であり、生産量が秋田県決算額の8倍で日本一であったと聞き、突然、頭に宇宙都市が出現した気がした。そして、事務所の中を見ると、日本にはなかったガラスをベルギーから輸入、頭の上にはシャンデリア、建物の中心に巨大な秋田杉の柱、窓は二重になっており、内側の窓は木製で軽く上下する細工窓、すべてが豪華な設備なのです。その他に総合病院を経営し、従業員の厚生施設として康楽館をつくったのです。いかに当時の藤田組が巨大企業であったことを物語る施設ばかりでした。

次に見学したのが、康楽館である。盲導犬を伴い奈落の底に行こうとしたが、狭くてとても無理と判断し入り口で待機しました。

最後にレールパークです。駅舎に入り、ホームを通りそして、踏切を渡り車両庫には、ディーゼル機関車、ラッセル車に思う存分触れることができ感動でした。

終わりにトロッコに乗車しました。頬にあたる風がとてもさわやかでした。子どものころ、小学校前の木材を秋田駅貯木場まで運ぶトロッコを思い出しなつかしさと胸がいっぱいでした。

帰りのバスの中で、会員の一人が、子供の頃の大館の川は「茶色」であったと聞き、公害にさらされていたのだと思い悲しくなりました。

実施日：10月8日（日）

参加者：20名（ボランティア2名を含む）

◆第16回秋田県サウンドテーブルテニス選手権大会成績

開催日：10月22日（日）

会 場：秋田県心身障害者総合福祉センター 2階卓球室・3階会議室

参加者：19名

サウンドテーブルテニス（アイマスク着用）A男子の部

優勝 沼倉正美 2位 長澤源一 3位 武田利美

サウンドテーブルテニス（アイマスク着用）A女子の部

優勝 高橋順子 2位 煙山百合子 3位 高橋麻由（秋田県立視覚支援学校）

サウンドテーブルテニス（アイマスク着用不要）B男女混合

優勝 佐佐木昭 2位 樽川勝由 3位 門間博明

◆第17回全国障害者スポーツ大会「愛顔（えがお）つなぐえひめ大会」出場報告より

秋田市 藤原弘敏

第17回全国障害者スポーツ大会「愛顔（えがお）つなぐえひめ大会」が、10月28日から3日間、愛媛県で開催され、私はサウンドテーブルテニスに出場しました。

秋田から空路羽田回りで広島に行き、広島からバスでしまなみ海道を通過して松山に入りましたが、素晴らしい秋晴れで、半袖でもいいぐらいの暖かさで、海も穏やかで島々も見え、四国に来た実感が湧きました。

28日は、朝から台風22号の影響で雨降りでしたが、松山市の愛媛県総合運動公園陸上競技場（ニンジニアスタジアム）で開会式が挙行され、選手団は合羽を着て入場行進しました。でも、式典はとてもすばらしく感動しました。

卓球競技は、松山市の隣の松前町の松前公園体育館と松前総合文化センターで行われました。1試合目は静岡の選手と

ゲームでしたが、リードする場面もありましたが3-1で負けでした。第2試合は埼玉の選手との試合でしたが、フルセットまで、しかもあと1ポイント取れば勝ちというところまでいきましたが、私のミスもあり逆転されてしまいました。改めて、1点の重さとゲームは最後まで諦めずにやらなければならないことを実感しました。

大会期間中、県外の選手や監督、コーチの皆さんと交流を深めることができたし、また、顔見知りの選手達とも再会できましたので有意義な時間を過ごすことができたと思っています。これからも愛媛大会の経験を活かし、練習や試合に前向きに取り組んでいこうと思っています。

最後に、全国障害者スポーツ大会に出場できて本当に良かったし、感謝しています。また、生涯の1ページの大会となりました。

このたびは皆様のご声援ありがとうございました。

◆稲庭うどん手作りを体験

湯沢市 柿崎妙子

天気予報が見事に当たり、冷たいみぞれにもかかわらず、日本古来からの伝統文化に触れ、とても清々しい気持ちになりました。

稲庭うどん創業万延元年一子相伝の「心・技・味」を受け継ぎ、「練る・縛う・延ばす」すべての工程が人の手によるものだそうです。今回、私たちはそのいくつかの工程を実体験してきました。ひも状の強い腰のある生地がどんどん変化してゆく様は驚きでもあり遊び心をもくすぐられるという不思議な体験でした。体験したうどんは、職人さんの手によって仕上げられ、後日宅配便で自宅に届きます。

午後からの、増田町蔵屋敷見学は、素晴らしい伝統建造物の説明を受けながら、「少しでも見えていたらなあ」という思いと、脈々と生活を営み守り続けている、歴史と

郷土愛の深さを感じました。

◆ブラインドテニスに参加して

横手市 北嶋 和枝

ブラインドテニス教室が11月26日10時より開催され、指導員7名、受講者7名によるワンツーマンの受講でした。

私は、聞くも触れるのも初めてです。テニスというからには、ゴムのボールの中に音がする物が入っていると勘違いをしていました。まさかスポンジとは思っていませんでした。

ボールとラケットが、どうもマッチしなくて、戸惑いを感じました。指導員による特訓も思うようにいきません。聴覚の衰えが進んできている私は必死でした。

サーブの練習には皆さんから援助を受けましたが、なかなかネットへボールが飛んでくれず、往生しました。コート of 広さとネットの高さ、自分の立つ位置を把握していないと思い通りにはいきません。以後2～3回練習しなければ、身につかない状態です。それでも、ボールは何とかネットを越えてくれました。指導員さんの根気強いアドバイスによる賜物でした。うれしかったです。指導員の皆様、ありがとうございました。

編集後記

視覚に障害があるために、自由に外出をして用事をすませる、手紙を書いたり、読みたい本を読むなどの行為が思うようにならないということで、悩み、いらだち、孤独に陥っておられる方々に、私たちの団体「秋田県視覚障害者福祉協会」への入会をお勧めしています。

秋田県視覚障害者福祉協会は、「視覚障害者に対する社会の認識と理解を深め、そしてひとりひとりの視覚障害者の人間としての権利が保障される」という願いのもとに活動しています。

お近くで視覚障害でお悩み・お困りの方がおられましたら、ご紹介お願い致します。

また、秋田県版スマートサイト（ロービジョンケアを受けることができる施設等の紹介サイト）が昨年4月より開設されました。

当協会のホームページでも、スマートサイトの情報が掲載しておりますのでぜひご活用ください。

一般社団法人秋田県視覚障害者福祉協会 情報室

<http://www.akisikyou.jp/joho.html>